２０１５年（平成２７年）５月３１日発行

きぼうのいえ　ニュースレター

2015 年 春号

特定非営利活動法人　きぼうのいえ
〒111－0022　東京都台東区清川２丁目２９番１２号
電話：03-3875-7523　　Fax：03-3875-7525
Ｅ-Ｍａｉｌ：kibounoie777@mbm.nifty.com
ホームページ：http://www.kibounoie.info

山谷のホスピス旅館から

施設長　山本 雅基

～ホスピスロードとしてのきぼうのいえ～

以前きぼうのいえにボランティアとして来ていた、大学で社会学を講じているＳ准教授と話していた時のことです。彼女はまだ大学生の頃、人生の悩みからお遍路さんになって、四国の８８箇所の巡礼をしたそうです。彼女は、きぼうのいえが人生の流転の末にたどりついた人々にとっての終の棲家として機能していることと、かつてのお遍路さんの一部の人々との驚くべき類似性を指摘し始めたのでした。

「お遍路さんというのは、もちろん普通の遍路道を巡る人々を示すこともあるけれど、かつては不治の病とされたハンセン病にかかり、生まれ育ったふるさとを追われ、病気の治癒を願いながら各地での『ご接待』を受け、食をつないで巡礼する、そして、どこかの巡礼の地でその生涯を終えることになる人々のことも示していました。いわばお遍路道とは、ある人々にとっては『ホスピスロード』だったのです」

僕は、その言葉に強烈な衝撃を感じました。

そもそもホスピス自体は、１８世紀になってイギリスで生まれたもの。もちろん、中世の時代からホスピス的な存在はキリスト教会の施設に存在はしていましたが、明確に看取りの施設として誕生したのは現代になってからのことです。まだ「ホスピス」という概念さえまったくなかった時代の日本の「お遍路道」が、まさか「ホスピスロード」として位置づけられるとは！

きぼうのいえに来る人々は、ふるさとを追われ、都会でホームレスとして長い期間を困窮に耐えながら、ある種の放浪の旅をしながら生きながらえ、ようやくきぼうのいえに辿りつく。この場所で命に関わる重大な病に正面から立向かうことを余儀なくされながらも、生まれて初めて人々からの「無償の愛」を示してもらい、そこで「生き直し」ながら、人生の最期の時期を過ごす。

きぼうのいえが現代人の、貧しいなかでも最も貧しい人々のためのホスピスロードとしてのお遍路道となって存在してくれていることに、僕は人間を見守る偉大な神さまのご配慮を感じざるを得ないでいます。

今号は、なんとおまけ付き！

手づくり缶バッチ♪

そうです。1 年前です。会報で、缶バッチ作り計画のお知らせをしたのは。そして、遂に皆さまに、バッチをお届けできる日が来ました！スタッフがひとつひとつ、手づくりしました。胸に、バッグに、帽子に、きぼうのいえ缶バッチを是非。

きぼうのいえって、どんなとこ？

皆さまが、いつもご支援下さっているきぼうのいえの毎日は、こんな街で、こんな方々に助けられ、こんな風に営まれています！

三社祭のお神輿がやって来ました！

ご近所の玉姫神社。お正月には初詣、春にはお花見。

きぼうのいえにも提灯。

ご近所の『山友会』さん。無料のクリニックや相談室が開かれていて、山谷のおじさんたちの絶対的な味方です。

きぼうのいえは、この通りにあります。

歩いて30歩くらいのところにあるお店、『中村屋』さん。みんなが一番お買い物に行くお店です。

「あたしこそアイドル！」という目線のみそのちゃん。

スタッフとボランティアさんが、きぼうのいえの玄関前にて。男性スタッフやボランティアさんも、もちろん活躍中！

『あしたのジョー』のふるさととして知られる『いろは会商店街』も、すぐ近く。

南千住と言えば、有名な『カフェ・バッハ』。ケーキもコーヒーも高いので、入居者さんもスタッフも、めったに行かれません・・・が、さすがの味！

やさしく頼りになる食堂の真知子さんは、ごはんを作って下さるだけでなく、入居者さんの見守りもして下さる、お母さん的存在です。

指圧ボランティアの中島先生。他にも、看護師さん、介護士さん、床屋さん、鍼灸師さんなど、さまざまなボランティアの方々が関わって下さっています。

ヘルパーさんの助けがなければ、きぼうのいえは回りません。こちらは『ヘルパーステーション　ハーモニー』の皆さん。入居者さんをいつもやさしく、忍耐強く、お世話して下さいます。感謝！

歩いて5分くらいの『シマダヤ』さん。なんでも安いので、人気。

この方が、NHKの『プロフェッショナル』でも紹介された本田徹医師。山谷だけでなく、海外や被災地などでも、立場の弱い人のために休みなく働く先生は、まさに現在の赤髭先生。他にも、『あやめ診療所』の伊藤先生や仁科先生、『堀内科クリニック』の堀先生、『塩川内科医院』の塩川先生、『中村歯科医院』の先生たちなど、献身的なドクターたちが往診して下さいます。

入居者さんの健康状態が気になる時には、『訪問看護ステーション　コスモス』に電話。プロ中のプロの看護師さんたちが、不安を取り除いてくれます。

昼間、デイサービスに行かれる入居者さんも。
写真は、コスモスのデイサービスセンター。

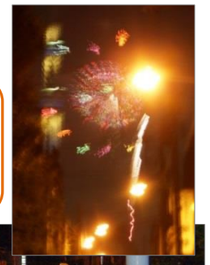
建物中、いつもピッカピカにお掃除して下さる広田さん。心が伝わって来ます。

お仕事のあとのお茶は、おいしいわ～♥

マイペースの黒猫クララも、ベテラン看護師・宋さんの手にかかると、タジタジ。

クララ～っ！さあ、猫サーカス団の訓練の時間だよぉ～！

やめろにゃ～！！



きぼうのいえの前の路上で、隅田川の花火大会を、みんなで見物。

『ボランティア・節子さん』という生き方

「きぼうのいえに来るのが、楽しくって、楽しくって、仕方ないの！」輝くような笑顔で、ボランティアの若林節子さんは、いつもそうおっしゃいます。その言葉は、節子さんが 50 歳の時にご主人が若年性アルツハイマーを発症、12 年間の介護生活の後にご主人を看取られたという事実を知ると、深い深い意味を伴って私たちの心に響いて来ます。

きぼうのいえの玄関の花は、いつ見ても溢れんばかり。10 年間、節子さんが用意し、活けつづけて下さっています。

「口も利けなくなったご主人に、『パパ、パパ』と話しかけ、部屋の中で童謡などを歌いながら、手をつないでぐるぐる散歩させて、まるで保育園のようだという」「『パパは私の作品なのよ』と、彼女は楽しそうに語る。私は、『そうね。そして、あなたはご主人の作品でもあるわね』と。すべての現象は意識が作り出すものだから、そう言って、彼女は日々の生活を感謝しながら楽しんだ」—これは、ご主人を介護されていた節子さんの日々について、彼女のご友人が以前ブログに書かれた文章の一部です。節子さんご自身は、当時のことを次のように文章にしておられます。

「精神的にとても疲れる時もあり、もう神に頼るしかない！といった状況が、私を神に祈らせ、むさぼるように色々な宗教の本を読むきっかけを作ってくれました。読んでは祈り、祈っては読むという 10 年間でした」「意識を常に神に合わせること、仏教での『空の世界から物を見よ』と同じことだと思いますが、そのように心がけて過ごすことにより、私のエゴ（自我）が気づかぬうちに少しずつ削られていき、世俗的な悲しみ、苦しみ等がスルリと私の両脇を通り過ぎていったように思います」

ご主人を看取られた後、きぼうのいえのボランティアに。彼女の腕の中で亡くなられた方もいます。「人間は、人生の最後の時に様々な葛藤を捨ててシンプルになります。全てを自然にお任せし平安に天国へ旅立つお手伝いが出来ることは、神様から私に与えられた尊いお仕事かもしれません」

ボランティアとは何か？—その答えを、彼女は自身の存在そのもので現しているような気がします。

入居者さんのために彼女が煎れるコーヒーは、驚異的なおいしさ！

■きぼうのいえでは、私どもの活動にご賛同頂ける皆様方に、ご支援・ご寄付をお願いしています。
振り込み方法は、①郵便振替　②銀行振込　③インターネット募金　の3つがあります。
きぼうのいえの運営へのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

① 郵便振替の場合
郵便振替番号：
00190-6-388670
名義：きぼうのいえ後援会

② 銀行振込の場合 （※1）
みずほ銀行　三ノ輪支店　普通
口座番号：1284037
名義：特定非営利活動法人きぼうのいえ

③ インターネット募金
ホームページからアクセスして、
カード決済することもできます。
http://www.kibounoie.info/index.html

- ※1 ：銀行振込の方で領収書が必要な方はメール等で連絡先をお知らせ下さい。
- 正会員希望の方は、お手数ですが事務局までご一報下さい。